

鳥取県埋蔵文化財センター出前講座
平成31年2月10日(日)
9時30分～11時30分
於：あおば地区公民館

出前講座「鋳型を使った物づくり ～鏡とお金～」

鳥取県埋蔵文化財センター
発掘事業室 西川 徹

1 はじめに

- (1) 鋳造とは何か
 - ・材料を溶かして鋳型に流し込むことで形を作る。
 - ・鋳型の例として、たい焼きとたい焼き用鋳型で説明
- (2) 青銅器の説明
 - ・銅(10円玉の材料)と錫(缶詰の内面の銀色の金属)を混ぜたもの。

2 鏡について

- (1) 鏡の歴史
 - ・最初は水に姿を映した?
 - ・金属製の鏡(日本では明治時代になるまで使用)
 - ・ガラスの鏡(現在)
- (2) 日本における鏡の持つ意味
 - ・弥生～古墳時代: 権威の象徴・・・単なる姿見ではない
 - ・その後、徐々に姿見としての役割が一般的になる
- (3) 鏡を作る
 - ・鋳型を作る
 - ↓
 - ・青銅を用意し、溶かす
 - ↓
 - ・青銅を鋳型に注ぎ込む

3 銅銭について

- (1) 日本における銅銭の歴史
 - ・富本銭、和同開珎を含む皇朝十二銭
 - ・お金を貯めると位がもらえる(蓄銭叙位令)
- (2) 銅銭を作る
 - ・どんな鋳型か
 - ・一度にたくさん作れる
- (3) 埋蔵銭について
 - ・鳥取市気高町の下坂本清合遺跡出土の埋蔵銭を紹介

4 まとめ

- ・材料は金属(青銅)とチョコレートの違いがあるが、材料を溶かして鋳型に流し込むという同じ作り方